

④ 中高 美術科問題の解答について (注意)

1. 解答はすべて、別紙のマークシートに記入すること。
2. マークシートは、電算処理するので、折り曲げたり、汚したりしないこと。また、マーク欄はもちろん、余白にも不要なことを書かないこと。
3. 記入は、HBまたはBの鉛筆を使って、ていねいに正しく行うこと。(マークシート右上の記入方法を参照) 消去は、プラスチック消しゴムで念入りに行うこと。
4. 名前の記入 名前を記入すること。
5. 教科名の記入 教科名に「美術」と記入すること。
6. 受験番号の記入 受験番号欄に5けたの数で記入したのち、それをマークすること。
7. 解答の記入
 - ア. 小問の解答番号は1から67までの通し番号になっており、例えば、25番を

25

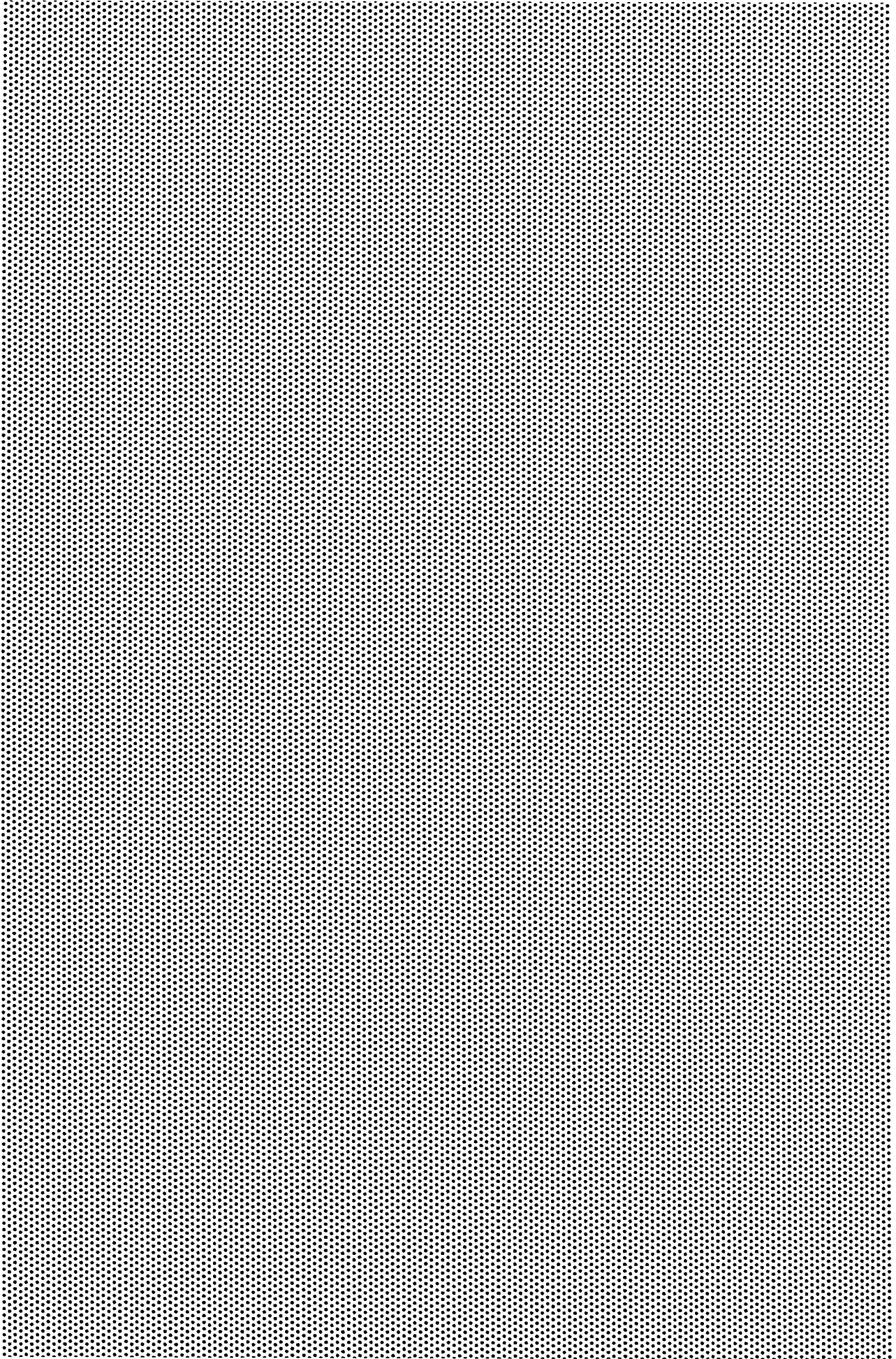
 のように表示してある。
 - イ. マークシートのマーク欄は、すべて1から0まで10通りあるが、各小問の選択肢は必ずしも10通りあるとは限らないので注意すること。
 - ウ. どの小問も、選択肢には①、②、③……の番号がついている。
 - エ. 各問いに対して一つずつマークすること。

(マークシート記入例)

フリガナ	コウベ タロウ	教科名	美術
名前	神戸 太郎		

受験番号	小問番号	解答記入欄	小問番号	解答記入欄	小問番号	解答
1 2 3 4 0	1	1 - 25	26	26 - 50	51	51
0 0 0 0 0	2	0 0 0 0 0 0 0 0 0 0	27	0 0 0 0 0 0 0 0 0 0	52	0 0 0 0
0 0 0 0 0	3	0 0 0 0 0 0 0 0 0 0	28	0 0 0 0 0 0 0 0 0 0	53	0 0 0 0
0 0 0 0 0	4	0 0 0 0 0 0 0 0 0 0	29	0 0 0 0 0 0 0 0 0 0	54	0 0 0 0
0 0 0 0 0	5	0 0 0 0 0 0 0 0 0 0	30	0 0 0 0 0 0 0 0 0 0	55	0 0 0 0
0 0 0 0 0	6	0 0 0 0 0 0 0 0 0 0	31	0 0 0 0 0 0 0 0 0 0	56	0 0 0 0
0 0 0 0 0	7	0 0 0 0 0 0 0 0 0 0	32	0 0 0 0 0 0 0 0 0 0	57	0 0 0 0
0 0 0 0 0	8	0 0 0 0 0 0 0 0 0 0	33	0 0 0 0 0 0 0 0 0 0	58	0 0 0 0
0 0 0 0 0	9	0 0 0 0 0 0 0 0 0 0	34	0 0 0 0 0 0 0 0 0 0	59	0 0 0 0
0 0 0 0 0	10	0 0 0 0 0 0 0 0 0 0	35	0 0 0 0 0 0 0 0 0 0	60	0 0 0 0
0 0 0 0 0	11	0 0 0 0 0 0 0 0 0 0	36	0 0 0 0 0 0 0 0 0 0	61	0 0 0 0

数字で記入……



【1】「学習指導要領解説特別の教科 道徳編」（平成29年7月 文部科学省）に記載されている道徳教育と道徳科について、次の問いに答えよ。

(1) 小学校（中学校）学習指導要領解説特別の教科 道徳編（平成29年7月 文部科学省）における道徳教育の目標に関する記述のうち、適切でないものを①～⑤から選び、番号で答えよ。

- ① 学校における道徳教育は、自己の生き方を考え、主体的な判断の下に行動し、自立した一人の人間として他者と共によりよく生きるための道徳性を養うことを目標とする。
- ② 学校における道徳教育は、社会の変化に対応しその形成者として生きていくことができる人間を育成する上で重要な役割をもっている。
- ③ 道徳教育は、学校や児童生徒の実態などを踏まえ設定した目標を達成するために、道徳科はもとより、あらゆる教育活動を通じて、適切に行われなくてはならない。
- ④ 各教育活動での道徳教育は、その特質に応じて意図的、計画的に推進することが大切であるが、相互に関連を図ることは適当ではない。
- ⑤ 学校における道徳教育は、児童生徒の発達の段階を踏まえて行われなければならない。

1

(2) 次の文は、小学校（中学校）学習指導要領解説特別の教科 道徳編（平成29年7月 文部科学省）における道徳科の目標に関する記述の一部である。次の（ア）～（ウ）に入る語句の適切な組合せを①～⑤から選び、番号で答えよ。

道徳科が目指すものは、学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育の目標と同様に（ア）ための基盤となる道徳性を養うことである。その中で、道徳科が学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育の（イ）としての役割を果たすことができるよう、計画的、（ウ）な指導を行うことが重要である。

- ① （ア） よりよく生きる （イ） 要 （ウ） 応用的
- ② （ア） よりよく生きる （イ） 要 （ウ） 発展的
- ③ （ア） 主体的に生きる （イ） 要 （ウ） 応用的
- ④ （ア） よりよく生きる （イ） 中枢 （ウ） 発展的
- ⑤ （ア） 主体的に生きる （イ） 中枢 （ウ） 系統的

2

(3) 小学校(中学校)学習指導要領解説特別の教科 道徳編(平成29年7月 文部科学省)「第3章 道徳科の内容」では、指導すべき内容項目をA B C Dの4つの視点で分類整理し、その内容を端的に表す言葉を付記したものを見出しにして、内容項目ごとの概要、指導の要点を示している。次に示す5つは、内容項目の見出しである。このなかで「B 主として人との関わりに関すること」の視点に分類されるものはどれか、①～⑤から選び、番号で答えよ。

- ① 公正、公平、社会正義
- ② 家族愛、家庭生活の充実
- ③ よりよい学校生活、集団生活の充実
- ④ 礼儀
- ⑤ 生命の尊さ

【2】 次の問いに答えよ。

(1) 次の文は、「小学校学習指導要領解説 図画工作編」(平成29年7月 文部科学省)における表現及び鑑賞の活動に関する記述である。(ア)、(イ)にあてはまる適切な語句を①～⑤から選び、番号で答えよ。

表現及び鑑賞の活動とは、図画工作科の学習活動のことであり、児童がこれらの活動を通して学ぶ教科であるということを示している。

図画工作科の学習は、児童が感じたことや想像したことなどを造形的に表す表現と、作品などからそのよさや美しさなどを感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を深める鑑賞の二つの活動によって行われる。表現と鑑賞はそれぞれに (ア)、互いに働きかけたり働きかけられりしながら、(イ)高まっていく活動である。

- ① 独立して働き ② 個別に分かれ ③ 独立して働くものではなく
④ 一体的に補い合って ⑤ 独立して育ち

(ア)	(イ)
4	5

(2) 次の文は、「小学校学習指導要領解説 図画工作編」(平成29年7月 文部科学省)における造形的な見方・考え方に関する記述の一部である。()にあてはまる適切な語句を①～⑤から選び、番号で答えよ。

造形的な見方・考え方とは、「感性や想像力を働かせ、対象や事象を、形や色などの造形的な視点で捉え、自分のイメージをもちながら ()をつくりだすこと」であると考えられる。

「感性や想像力を働かせ」とは、表現及び鑑賞の活動において、児童が感性や想像力を十分に働かせることを一層重視し、それを明確にするために示している。「感性」は、様々な対象や事象を心に感じ取る働きであるとともに、知性と一体化して創造性を育む重要なものである。「想像力」は、これまで高学年の学年の目標や内容などで示してきたが、全ての学年の学習活動において、児童が思いを膨らませたり想像の世界を楽しんだりすることが重要であることから、感性とともに示している。

- ① 新たな表現 ② 新たな主題 ③ 美的な価値 ④ 表現の意味 ⑤ 意味や価値

6

(3) 次の文は、「中学校学習指導要領解説 美術編」(平成29年7月 文部科学省)における美術科の目標に関する記述である。(ア)～(ウ)にあてはまる適切な語句を①～⑤から選び、番号で答えよ。

今回の改訂では、従前は一文で示してきた教科の目標を、美術科において育成を目指す資質・能力をより明確にするため(1)「(ア)」、(2)「(イ)」、(3)「(ウ)」に整理し示している。

(略)

美術科で目指す資質・能力の育成は、目標に示されている(1)、(2)、(3)が相互に関連し合い、一体となって働くことが重要である。よって、必ずしも、別々に分けて育成したり、「(ア)」を習得してから「(イ)」を身に付けるといった順序性をもって育成したりするものではないことに留意する必要がある。

- | | | | |
|--------------------|----------------|------------|---|
| (ア) ① 知識及び理解 | ② 知識及び技能 | ③ 知識 | 7 |
| ④ 関心や意欲、態度 | ⑤ 理解及び技能 | | |
| (イ) ① 思考力、判断力、表現力等 | ② 思考力、判断力 | ③ 発想や構想の能力 | 8 |
| ④ 創造的な技能 | ⑤ 表現の能力 | | |
| (ウ) ① 鑑賞の能力 | ② 学びに向かう力、人間性等 | ③ 関心や意欲、態度 | 9 |
| ④ 学びに向かう力 | ⑤ 鑑賞の能力、人間性等 | | |

(4) 次の文は、「中学校学習指導要領解説 美術編」(平成29年7月 文部科学省)における第1学年の目標及び内容に関する記述である。(a)、(b)にあてはまる適切な語句を①～⑤から選び、番号で答えよ。

A 表現

(1) 表現の活動を通して、次のとおり発想や構想に関する資質・能力を育成する。

ア (a) を基に、絵や彫刻などに表現する活動を通して、発想や構想に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。

(ア) 対象や事象を見つめ感じ取った形や色彩の特徴や美しさ、想像したことなどを基に主題を生み出し、全体と部分との関係などを考え、創造的な構成を工夫し、心豊かに表現する構想を練ること。

イ (b) を考え、デザインや工芸などに表現する活動を通して、発想や構想に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。

(イ) 構成や装飾の目的や条件などを基に、対象の特徴や用いる場面などから主題を生み出し、美的感覚を働かせて調和のとれた美しさなどを考え、表現の構想を練ること。

(イ) 伝える目的や条件などを基に、伝える相手や内容などから主題を生み出し、分かりやすさと美しさなどとの調和を考え、表現の構想を練ること。

(イ) 使う目的や条件などを基に、使用する者の気持ち、材料などから主題を生み出し、使いやすさや機能と美しさなどとの調和を考え、表現の構想を練ること。

- (a) ① 見たことや想像したこと ② 身近な美しさから考えたこと
③ 伝えたい思いや考え ④ 自分らしくあらわすこと
⑤ 感じ取ったことや考えたこと

10

- (b) ① 伝える相手の気持ち ② 使いやすさや美しさ
③ 伝える、使うなどの目的や機能 ④ 身近な美しさから感じたこと
⑤ 伝えることの大切さ

11

- (5) 次の文は、「高等学校学習指導要領解説 芸術（音楽 美術 工芸 書道）編 音楽編 美術編」（平成30年7月 文部科学省）における美術の目標に関する記述である。（ア）～（ウ）にあてはまる適切な語句を①～⑤から選び、番号で答えよ。

「美術Ⅰ」においては、これまで、美的体験を豊かにし、生涯にわたり美術を愛好する心情と心豊かな生活や社会を創造していく態度を育てるとともに、感性や美術の創造的な表現と鑑賞に関する（ア）を伸ばすこと、美術文化の理解を深めることなどから目標を示してきた。しかし、どのような（ア）が身に付き、何ができるようになるのかが具体的な姿としてわかりにくい側面もあった。美術や美術文化とは、単に美術作品や過去の美術のことだけを指すものではなく、（イ）にも、社会としての広がりの中にも存在する。また、美術や美術文化によって育まれる豊かな創造性は、（ウ）やコミュニケーションをキーワードとするこれからの社会の基盤の一つとなるものである。このような考えに立って、全ての生徒に美術の学習を通して共通に身に付けさせる資質・能力を一層明確にした。

- | | | | |
|---------------|-----------|----------|----|
| (ア) ① 能力 | ② 資質 | ③ 資質・能力 | 12 |
| ④ 創造力 | ⑤ 表現力 | | |
| (イ) ① 豊かな自然の中 | ② 美術館や博物館 | ③ マスメディア | 13 |
| ④ 歴史や文化の中 | ⑤ 身近な生活の場 | | |
| (ウ) ① 環境 | ② 共生 | ③ 環境保護 | 14 |
| ④ ノーマライゼーション | ⑤ グローバル | | |

【3】 絵画について、次の問いに答えよ

(1) 次の文を読んで (ア)、(イ) にあてはまる適切なものをそれぞれ①～⑤から選び、番号で答えよ。

明治維新後、政府は西洋文明を取り入れ近代化を推し進める中、学校を開き、西洋からの画家や彫刻家、建築家を招いた。その反面、従来の日本の美術が軽んじられるという傾向も見られた。

武家出身の高橋由一は絵師として狩野派を学んだが、西洋画の写実性に感嘆し、透視図法、明暗法、(ア)などを研究して迫真的な作品を描いた。1876年に設立された工部美学校で、来日した画家に西洋画を学んだ浅井忠や、フランスに渡り帰国後に印象派の影響による明るい画風を伝えた(イ)らの活躍は、洋画という新しい絵画の流れに発展した。

(ア) ① 油絵技法 ② 木版画技法 ③ 水墨画技法 ④ テンペラ技法 ⑤ 水彩画技法

15

(イ) ① 藤島武二 ② 横山大観 ③ 川上冬崖 ④ 富岡鉄斎 ⑤ 黒田清輝

16

(2) 次の作品のうち、高橋由一の作品はどれか。①～⑤から選び、番号で答えよ。

著作権保護の観点により、
掲載いたしません。

(3) 次の文を読んで、(ア)、(イ) にあてはまる適切なものを①～⑤から選び、番号で答えよ。

印象主義を踏まえつつ、事物の形を光と空気の中に溶け込ませる感覚的な捉え方に対し、色彩理論を科学的、理論的に追究し、点描法による色彩効果を用いて画面に光輝を与えようとする運動が起こり、新印象主義と呼ばれた。ジョルジュ・スーラーやポール・シニャックなどに代表される。

また、印象主義や新印象主義の外光描写の影響を受けながらも、より意図的な独自の表現を目指す画家たちもいた。(ア)は、静物画、人物画、風景画に独自の様式を工夫して絵画の新しい秩序と調和のある世界を創造し、後のキュビズムの先駆的な役割を果たした。フィンセント・ファン・ゴッホは、自己の内面を反映させたかのような明快な色調と大胆な筆触で表現した。形を単純化して鮮やかな色を平塗りして対象を構成する表現を打ち立てた(イ)は、1891年にタヒチ島に渡り、島の原始的な生活を題材に数多くの傑作を残した。また、アンリ・ド・トゥルーズ＝ロートレックのように、パリの歓楽街に生きる人々を鋭い観察と巧みな筆遣いで表した画家もいた。

(ア)、ゴッホ、(イ)の3人を後期印象派(ポスト印象派)と呼ぶが、共通する技法や作風があるわけではなく、展覧会を開いたグループでもない。

- ① ポール・セザンヌ ② アンリ・ルソー ③ アンリ・マティス ④ ポール・ゴーギャン
⑤ ジョルジュ・ブラック

(ア)	(イ)
18	19

(4) フィンセント・ファン・ゴッホは、原色に近いさまざまな色の絵の具を点や線で画面上にのせ、見る人の目で色が混じるように感じさせる手法を用いた。その手法を次の①～⑤から選び、番号で答えよ。

- ① 加法混色 ② 純色混色 ③ 回転混色 ④ 減法混色 ⑤ 並置混色

20

(5) 次の (ア)、(イ) はフィンセント・ファン・ゴッホの作品についての解説である。解説にあてはまる作品を①～⑤から選び、番号で答えよ

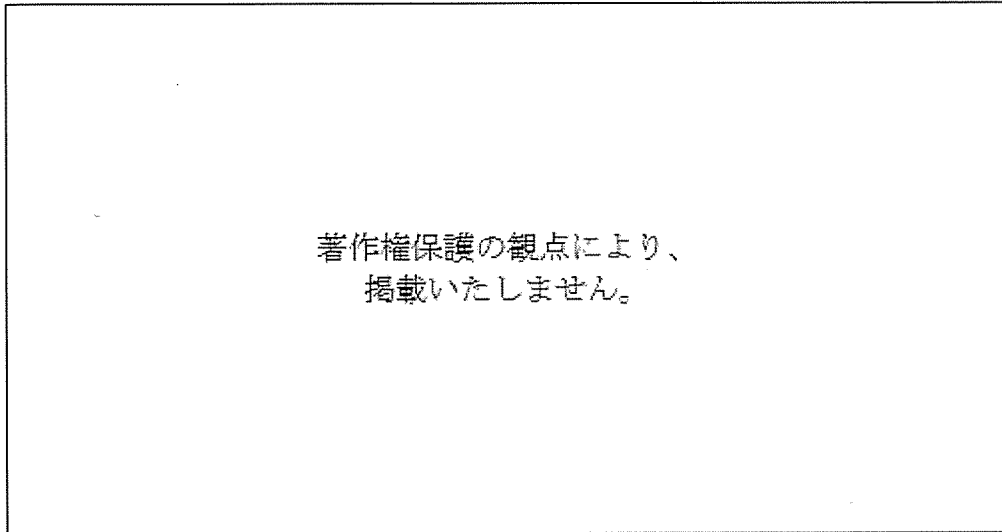
(ア) オランダのヌエネン滞在の頃がゴッホの絵画制作の開始期である。この地方の重く暗い光が、そのまま作品の筆触や色彩の重さに反映されている。

(イ) ゴッホはパリ在住を経て、南フランスのアールに移り住み、特にアールの強い光に魅せられて鮮やかな色と力強いタッチで作品を描くようになった。南仏のまばゆい光と青空の下で、ゴッホの作品はさらに明るさを増していった。

著作権保護の観点により、
掲載いたしません。

(ア)	(イ)
21	22

(6) ゴッホは多くの浮世絵を収集し、また浮世絵の模写もしている。次の作品の作者として適当な画家の名前を①～⑤から選び、番号で答えよ。



- ① 歌川広重 ② 葛飾北斎 ③ 溪斎英泉 ④ 菱川師宣 ⑤ 鈴木春信

(7) 次の文は、絵画表現の活動に関する記述である。(ア)～(ウ)のそれぞれのテーマに関する記述のうち、適切でないものを①～⑤から一つ選び、番号で答えよ。

(ア)〈身近なものを描く〉

- ① 描くためには、対象を一見したときの印象でつかむようにする。
- ② 見つめるうちに、普段は気に留めなかったものの表情が、新鮮に感じられることもある。
- ③ 対象の角度を変えてみたり、ぐっと近づいてみたり、置く場所を変えてみたりして、見方を工夫すると印象は変化する。
- ④ 日々の暮らしの中でいつも何気なく目にするものを改めて見つめ直したうえで絵に描く。
- ⑤ 対象の特徴を表現するには、どんな画材が適しているかも考えて選ぶようにする。

24

(イ)〈光と陰影を描く〉

- ① 光の描き方を工夫した作品を鑑賞し、光と陰影の効果的な表現に注目し、表しかたを工夫する。
- ② 対象をよく見つめると、光を強く反射している部分や、徐々に陰影が濃くなっていく部分があることに気付く。
- ③ 多方向から光を当てることで陰影が変化し、立体感をとらえやすくなる。
- ④ 紙袋や小箱など、身近なものに一方から光を当ててじっくり見てみると、袋のしわや箱の表面にできる陰の濃淡の差、机にできる物の影にも気付く。
- ⑤ 光と陰影は、ものを立体的に描くときの大切な要素でもある。

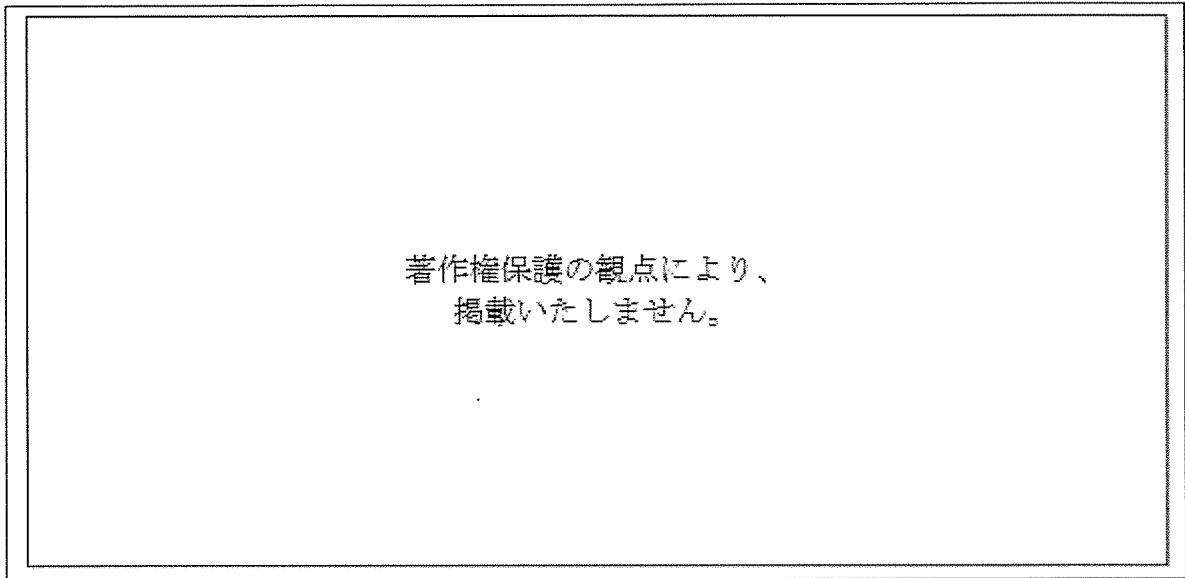
25

(ウ)〈風景を描く〉

- ① 思い出のある場所や心引かれる場所の風景を、構図や視点を工夫して表す。
- ② 住んでいる町や旅先で目にした風景に感動したことをもとに、そのとき感じた風景の魅力を大切に絵に表してみる。
- ③ 自由にスケッチしたり、繰り返し同じ風景を描いてみたりすることも良い。作品にするときには、全体の構図や色づかいにも気配りする。
- ④ 手前に置いた物と風景を対比させて描くときは手前の物を小さめに描くと遠近感が出やすい。
- ⑤ 風景を描く際には、水平方向で風景を捉えるだけでなく、見上げたり、見下ろしたりしてみてももしろい。

26

【4】彫刻について、次の文を読んで以下の問いに答えよ。



(1) 日本とヨーロッパにおける近代彫刻の始まりについて、文中の(ア)～(エ)にあてはまる適切なものを、それぞれ①～③から選び、番号で答えよ。

- (ア) ① 西洋の彫刻のよさに近づこう
② 日本の彫刻のよさを守ろう
③ 日本と西洋の彫刻の融合を図ろう

27

- (イ) ① ジャン＝バティスト・カルポー
② オーギュスト・ロダン
③ フレデリック・オーギュスト・バルトルディ

28

- (ウ) ① 豪壮・華麗さ
② 形式的な美しさ
③ 生命感や精神性

29

- (エ) ① カミーユ・クローデル
② 萩原守衛
③ アリステイド・マイヨール

30

(2) 次の作品のうち、高村光太郎の作品として適切でないものを①～⑤から選び、番号で答えよ。

著作権保護の観点により、
掲載いたしません。

(3) 次の作品のうち、オーギュスト・ロダンの作品はどれか。①～⑤から選び、番号で答えよ。

著作権保護の観点により、
掲載いたしません。

【5】 次の問いに答えよ。

次の（ア）、（イ）は彫刻家コンスタンティン・ブランクーシの作品についての解説である。解説にあてはまる作品をそれぞれ①～⑤から選び、番号で答えよ。

- （ア）パリに来て間もなく、ブランクーシは抽象形態の探究を始めた。石の塊を切り出したような野性味のあるこの表現主題は、1907年以降、生涯を通じて彼の重要なモチーフとなり、繰り返し追求された。
- （イ）第一次大戦の戦没者を慰霊するための彫刻である。周辺にはこの他にも彫刻が展示され、作品のアンサンブルを成している。この作品の形状には、ルーマニアの住居建築の伝統的な装飾文様からの影響がうかがえるという。

著作権保護の観点により、
掲載いたしません。

(ア)	(イ)
33	34

【6】 次の問いに答えよ。

- (1) 「中学校学習指導要領解説 美術編」(平成29年7月 文部科学省)における第2学年及び第3学年の技能に関する記述の抜粋である。(ア)(イ)にあてはまる適切な語句を①～⑤から選び、番号で答えよ。

つくる活動においては、複数の種類の粘土を組み合わせて立体作品を制作するという場面では、(ア) 様々な粘土の特性を理解することや、細部からつくり接着剤で貼り合わせるのか、全体を大まかにつくってから細部を仕上げていくのかなど、どの部分を先に形に表すのかを考えることも必要である。加えて、紙粘土や樹脂系の粘土は着彩が可能なものが多く、着彩をする場合にはどの段階で色を加えるのかも活動の手順を考える上では重要である。例えば使う色があらかじめ決まっていれば、粘土に絵の具を混ぜながら色粘土をあらかじめつくっておくことや、粘土で形を完成させてから筆により着彩を行うことも考えられる。同じ材料で同じ題材を扱う場面であっても、活動の手順が同じとは限らない。生徒の表現意図がより美しく効果的に生かされるよう、(イ) 行っているかを、正しく見取り、適切に指導することが大切である。

- (ア) ① 造形的な視点をもつために
② 見通しをもつために
③ 発想や構想をするために
④ 容易に取り組めるように
⑤ 表現方法を知るために
- (イ) ① 正しい方法で制作を
② 指導した通りの手順で
③ 意欲的に制作を
④ どのような考えでその手順を
⑤ 思い付いた手順で

(ア)	(イ)
35	36

(2) 下線部の紙粘土の特徴について最も適切なものを①～⑤から選び、番号で答えよ。

- ① 乾燥すると固まり、絵具などで色を塗ることができる。絵具を練り込んで色粘土をつくって表すこともできる。重みがあるので、土台などにもできる。
- ② 伸びがよく繰り返し使える。重く乾燥すると独特の質感になる。共同で制作する場合など大きなものをつくったり大量に使用したりする場合にも適している。
- ③ 薄く伸ばすことができ、着色はアクリル絵の具が適している。薄いものや細かいものの造形に適しているが高価である。
- ④ 硬くならないので繰り返し使用できる。手や周囲が汚れにくいので机の上でも容易に立体作品を作ることができる。
- ⑤ 石膏のように固まるが石膏のように溶く必要がない。布などを浸したり、振りかけたりして固めることもできる。

【7】 デザインとその指導について次の問いに答えよ。

(1) (ア) ～ (イ) にあてはまる適切な語句を①～⑤から選び、番号で答えよ。

伝えようとする情報がひと目で伝わるように工夫された視覚記号（サイン）の一つに（ア）がある。具体的な物や行為などの形や色彩を単純化や強調することでわかりやすく情報を伝えることができ、駅や空港などの公共の場で主に用いられる。

さらに（ア）や文字情報などを組み合わせ、必要な情報を的確に伝えたり、人々の動きをスムーズに誘導したりするための全体計画を（イ）という。

- (ア) ① マッピング ② ピクトグラム ③ プロトタイプ
 ④ イラストレーション ⑤ タイポグラフィー

38

- (イ) ① サイン計画 ② インダクションマップ ③ コンビネーションプログラム
 ④ ダイアグラム ⑤ アイキャッチ

39

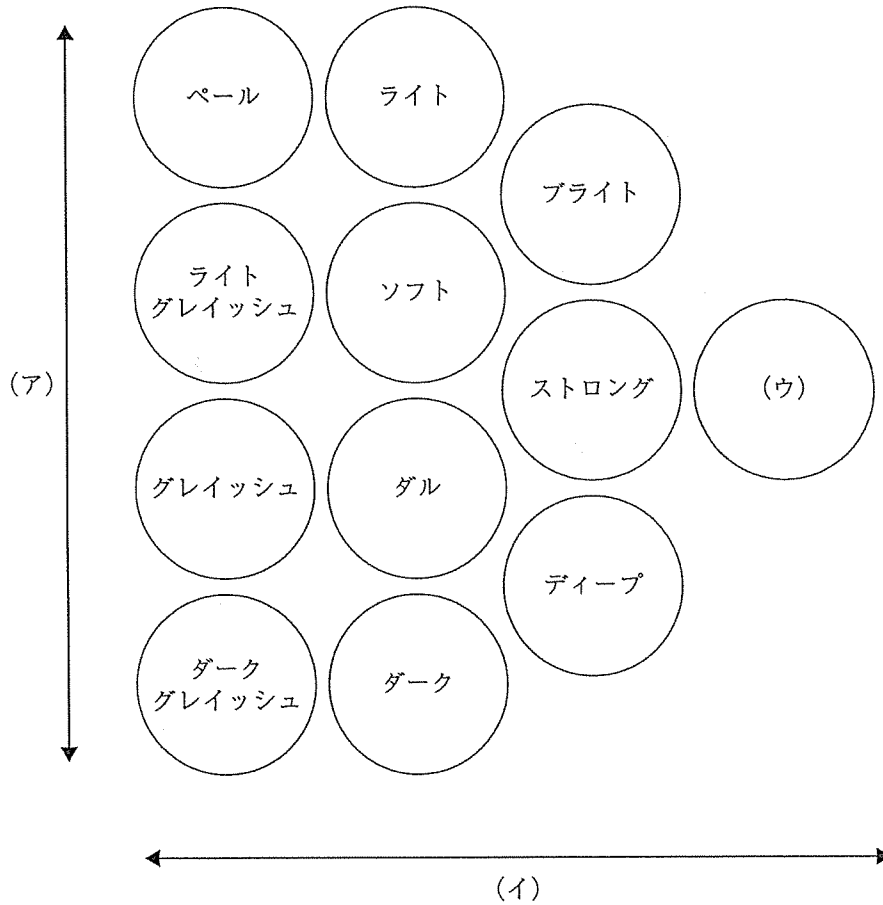
(2) SDGsとは「持続可能な開発目標」のことで、2015年に国際連合で採択された。ポスターは、世界の全ての人々が安心して暮らせるために解決すべき諸問題を、色彩とイラストレーションの視覚的情報と文字の組み合わせによって、象徴的でわかりやすく示している。図の表現から(ア)、(イ)にあてはまる目標の文を①～⑤から選び、番号で答えよ。なお、文字の情報は伏せてある。



- ① つくる責任 つかう責任
- ② 平等と公正をすべての人に
- ③ 貧困をなくそう
- ④ 産業と技術革新の基盤をつくろう
- ⑤ ジェンダー平等を実現しよう

(ア)	(イ)
40	41

(3) 次の図は、PCCSトーン分類図をもとにした、色のトーン分類の略図である。(ア)～(ウ)にあてはまる語句を下の①～⑥から選び、番号で答えよ。



- ① シャイン ② フレッシュ ③ ビビッド ④ 彩度 ⑤ 明度 ⑥ 色相

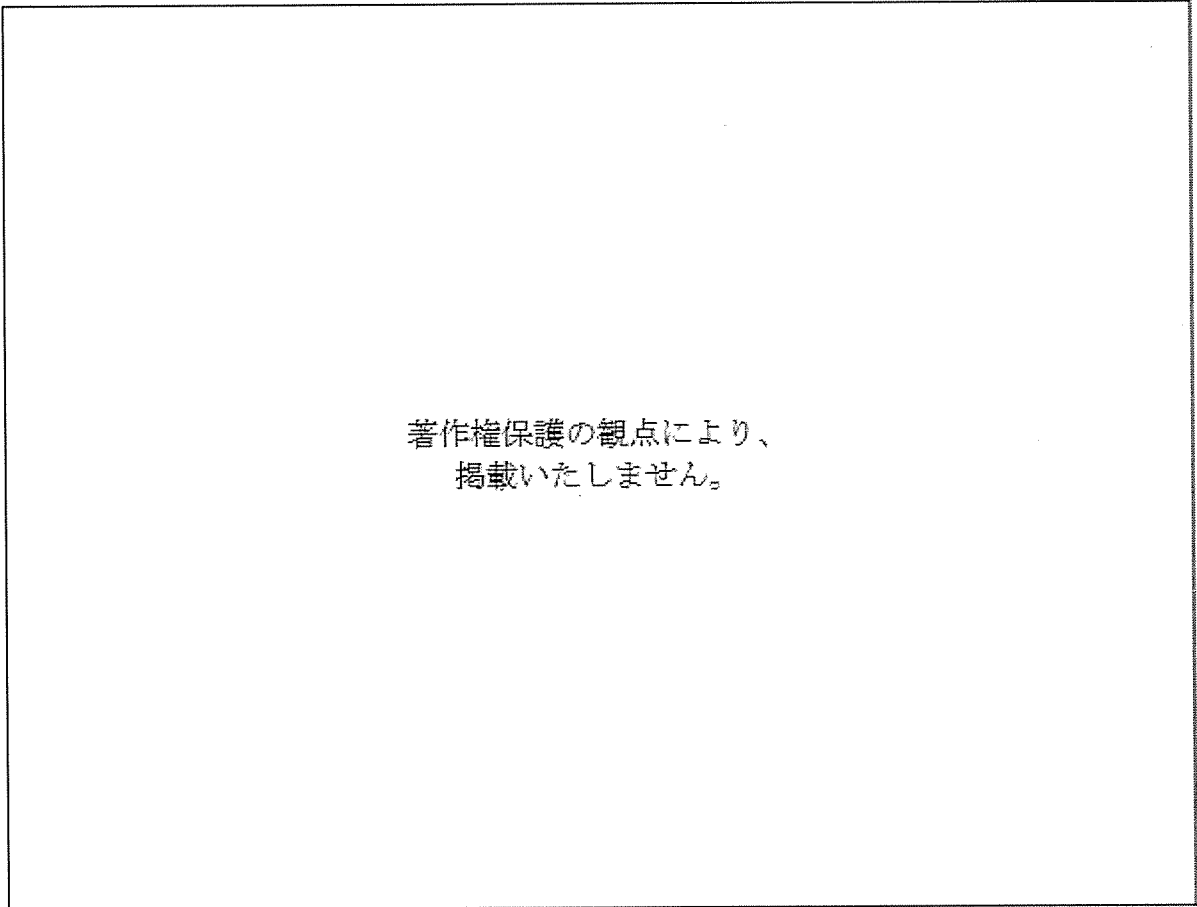
(ア)	(イ)	(ウ)
42	43	44

(4) 配色の効果の説明として、適切でないものを①～⑤から選び、番号で答えよ。

- ① 同一の色相で、明度や彩度で変化をつける配色はまとまりやすい。
- ② 色相差の小さい配色はまとまりやすい。
- ③ 色相差の大きい配色は、お互いの色を強く引き立たせ合う効果がある。
- ④ 明るい、渋い、爽やかなど、それぞれのトーンのイメージがあり、そのイメージを生かすためには、配色を同じトーンで統一するとよい。
- ⑤ 配色を同じトーンで統一すると、対比がはっきりして、見せたい対象を引き立たせることができる。

【8】 工芸とその指導について、次の問いに答えよ。

(1) 次のア～ウの工芸品が作られた場所の、現在の都道府県名として適切なものをそれぞれ①～⑤から選び、番号で答えよ。



- ① 佐賀県 ② 広島県 ③ 山口県 ④ 岩手県 ⑤ 沖縄県

ア	イ	ウ
46	47	48

- (2) 次の文は、「中学校学習指導要領解説 美術編」(平成29年7月 文部科学省)における第1学年の発想や構想に関する記述の抜粋である。(ア)、(イ)にあてはまる適切な語句の組合せを①～⑤から選び、番号で答えよ。

使いやすさや機能と美しさなどとの調和を考え、表現の構想を練るとは、使う目的や条件に基づきながら、使用する者の気持ち、(ア)などを踏まえて、美しく表現するための構想を練ることである。生活に潤いを与えるためには、使いやすさや機能だけでなく、「使っていて楽しい」、「見ていて心地よい」など使う人が日常の中で感じるような美しさなどとの調和が重要である。使いやすさや機能は、使う人の気持ちを考え、検討した上で、形や色彩に反映されてはじめて意味をもつ。形や色彩、扱う材料を、機能的な側面と使用する者の立場に立った客観的な側面とで捉え、それらの特性を生かして発想や構想をすることが必要である。そのために(イ)と関連を図りながら、目的や機能との調和のとれた美しさを感じ取る学習と生活を美しく豊かにする美術の働きについて考える学習を組み合わせるなどの学習活動を工夫して、使う人の視点からデザインや工芸の見方や感じ方を広げることも大切である。

- | (ア) | (イ) |
|-----------------|-------|
| ① 機能的な側面 | 鑑賞の活動 |
| ② 材料の特性 | 表現の活動 |
| ③ 材料の特性 | 鑑賞の活動 |
| ④ 生徒自らが強く表したいこと | 表現の活動 |
| ⑤ 生徒自らが強く表したいこと | 鑑賞の活動 |

- (3) 次の文は、木工の材料について述べたものである。(ア)～(オ)にあてはまる適切な語句の組合せを①～⑤から選び、番号で答えよ。

木工の材料は、むく材では、昔は主に(ア)(樺、桐、桜など)が多く使われていたが、現在は(イ)(松、杉、檜など)や(ウ)(ラワン、チークなど)なども数多く使用されている。(エ)(薄板を何枚か木目が互いに直交するように張り合わせたもの)や(オ)(板材・角材を接着剤で張り合わせて仕上げたもの)では、それぞれの特性を生かし、つくる目的や用途によって使い分ける。

- | | (ア) | (イ) | (ウ) | (エ) | (オ) |
|---|-----|-----|-----|-----|-----|
| ① | 広葉樹 | 針葉樹 | 輸入材 | 集成材 | 合板 |
| ② | 針葉樹 | 広葉樹 | 集成材 | 合板 | 輸入材 |
| ③ | 針葉樹 | 広葉樹 | 集成材 | 輸入材 | 合板 |
| ④ | 広葉樹 | 針葉樹 | 輸入材 | 合板 | 集成材 |
| ⑤ | 針葉樹 | 広葉樹 | 輸入材 | 合板 | 集成材 |

50

- (4) 次の文は、染色の染料について書かれたものである。(ア)～(エ)にあてはまる適切な語句の組合せを①～⑤から選び、番号で答えよ。

染料には(ア)と(イ)がある。(ア)には草木の皮、根、花、果実などを乾燥させてつくられた(ウ)と、昆虫や貝などから取られた(エ)がある。

また身近にある玉葱や紅茶、コーヒーなども染料として使うことができるため、そうした(ウ)による染色を楽しむ人たちが増えている。(イ)は(ア)に比べて鮮やかな色彩が容易に、また多量に染めることが可能なため、今では天然染料に取って代わっている。

- | | (ア) | (イ) | (ウ) | (エ) |
|---|------|------|------|------|
| ① | 合成染料 | 天然染料 | 植物染料 | 動物染料 |
| ② | 天然染料 | 合成染料 | 動物染料 | 植物染料 |
| ③ | 動物染料 | 植物染料 | 合成染料 | 天然染料 |
| ④ | 植物染料 | 合成染料 | 天然染料 | 動物染料 |
| ⑤ | 天然染料 | 合成染料 | 植物染料 | 動物染料 |

51

- 【9】 大地の芸術祭・越後妻有アートトリエンナーレ、瀬戸内国際芸術祭などに代表される芸術祭は、社会のさまざまな問題解決に有効な働きをすることが認められてきた。芸術祭についての次の文の（ア）～（イ）にあてはまるもっとも適切な語句をそれぞれ①～③から選び、番号で答えよ。

著作権保護の観点により、
掲載いたしません。

日本全国、さまざまな地域で開催される芸術祭は、未知のものとの出会いであふれている。国内外の（ア）に触れる機会であるだけでなく、（イ）を通じて、見知らぬ人々の間に思いがけない交流が生まれることもある。地元の人から話を聞いたり、土地の歴史を調べたりすることで、作家が新たな表現方法を、その場で発見することもある。行ってみないとわからないこと、やってみないとわからないことがたくさんある。この「わからなさ」に向き合うことで、私たちの世界は広がっていく。

- （ア）① 美術館のコレクション
② 伝統の美術工芸品
③ 現代美術

52

- （イ）① 作品を鑑賞すること
② 作家について知ること
③ 共同制作や運営ボランティアの活動

53

【10】映像メディア表現とその指導について次の問いに答えよ。

(1) アニメーションは、様々な手法によって作られる。アニメーションの歴史を振りかえると数々の実験的な短編映像の制作によって多くの技法が生み出されてきた。次のア～ウのアニメーション作品の制作手法として適切なものを①～⑤から選び、番号で答えよ。

著作権保護の観点により、
掲載いたしません。

- ① コンピュータを用いて3Dで描かれたキャラクターを動かしたつくられたアニメーション作品。
- ② 半透明のフィルムに、色鉛筆やパステルを使って約2万枚の絵を描き、約30分のアニメーションに仕上げた。
- ③ 役者の位置を少しずつ変えてコマ撮りした写真を、連続して見せる手法（ピクシレーション）が随所に用いられた約8分の作品。
- ④ ミニチュアで精巧につくられたセットが特徴的な作品。キャラクターはクレイ（粘土）でつくられている。
- ⑤ セルに描いたパーツを組み合わせて動きを表現する、切り絵アニメーションの作品。

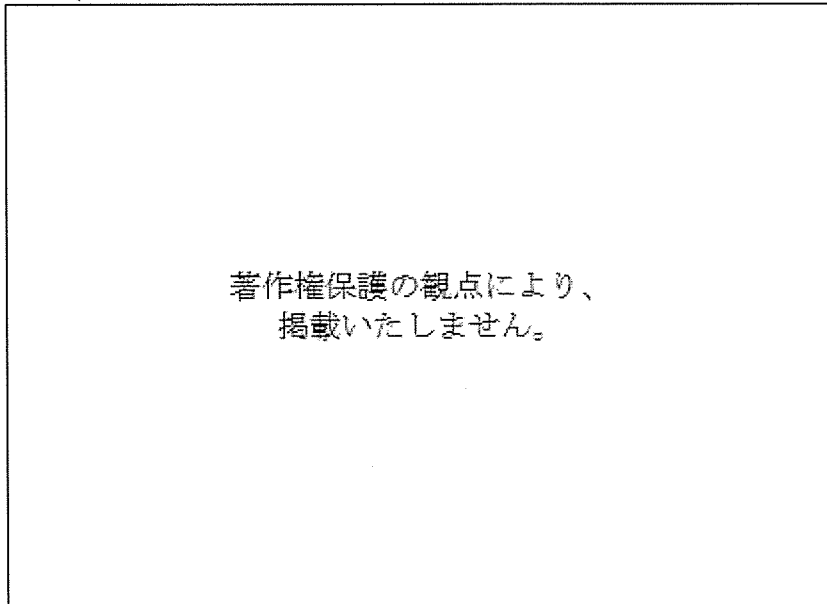
ア	イ	ウ
54	55	56

(2) 次の(ア)～(ウ)は、写真表現とその方法と効果についての説明である。適切でないものをそれぞれ①～④から選び、番号で答えよ。

(ア)

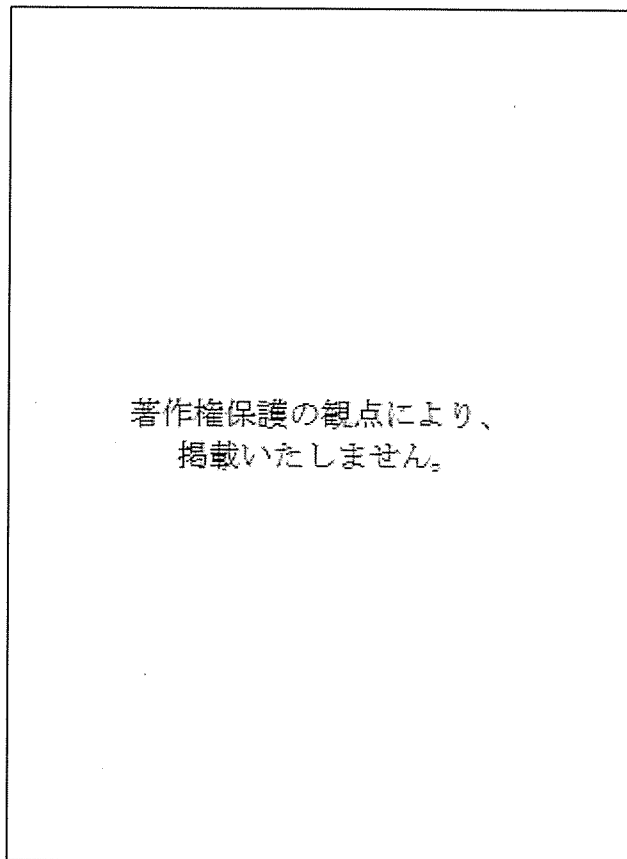
- ① 報道写真は、目の前で起きている事実を撮影し、広く世の中に伝える役目を担っている。視覚的な伝達により事実を見せるだけでなく、地域紛争、貧富の格差などといった現代社会の問題点やスポーツなどにおける臨場感など、目に見えない感情や問題意識なども伝える。
- ② 目の前のできごとを手早く撮影することをドキュメンタリー写真という。被写体の自然な表情や雰囲気をつえやすい撮影方法である。
- ③ カメラはシャッタースピードを調整して一瞬をつえたり、光の露光を調整して現実にはあり得ない光を表現できたりと、実に多様な表現が可能である。
- ④ 現代では、デジタル技術の発達によって様々な写真表現の効果を人工的に作り出すこともできる。

(イ) 次の写真について



- ① 昼間に撮影した岩山と、夜間に撮影した星の軌跡を重ねた二重露光の作品である。
- ② 長時間露光では、カメラを固定するための三脚が欠かせない。
- ③ 長時間露光は、シャッターを一定時間ごとに開放し、露光時間を長くして撮影する。
- ④ 長時間露光で撮影すれば、時間の経過に伴う被写体の移動の軌跡をつえることができる。

(ウ) 次の写真について



- ① 写真は、複数を組み合わせることで、時間の経過や情景の変化、出来事、ある対象の様々な側面、心の中のイメージなどを表現することが可能である。
- ② 写真の枚数は多くなる程に表現効果は高まる。1枚の写真では表現できないテーマを、それぞれの写真の意味や役割、組み合わせによる効果などを考え、複数の写真で表す。
- ③ 複数の写真を組み合わせることから生まれる効果を生かし、表したいテーマを創造的に表現する。
- ④ 下の写真は、過去の写真を基にして、同じ場所、同じアングルで撮影している。現在の被写体たちは、過去の写真に似せて制作した服を着用している。過去と現在を比べ、見る者に人間関係や時間について考えさせる作品である。

(ア)	(イ)	(ウ)
57	58	59

【11】 次の問いに答えよ。

(1) 中学校の美術科を教える上で、小学校図画工作科とのつながりは大切である。次の文は、「小学校学習指導要領」(平成29年3月 文部科学省)における材料や用具に関する記述の一部である。(ア)、(イ)にあてはまる適切な語句を①～⑤から選び、番号で答えよ。

- (6) 材料や用具については、次のとおり取り扱うこととし、必要に応じて、当該学年より前の学年において初歩的な形で取り上げたり、その後の学年で繰り返し取り上げたりすること。
- ア 第1学年及び第2学年においては、(ア)など身近で扱いやすいものを用いること。
- イ 第3学年及び第4学年においては、(イ)などを用いること。
- ウ 第5学年及び第6学年においては、針金、糸のこぎりなどを用いること。
- (7) 各学年の「A表現」の(1)のイ及び(2)のイについては、児童や学校の実態に応じて、児童が工夫して楽しめる程度の版に表す経験や焼成する経験ができるようにすること。

- (ア) ① 土、粘土、木、紙、クレヨン、パス、はさみ、のり、簡単な小刀類
② 土、粘土、木、紙、クレヨン、パス、はさみ、のり
③ 土、粘土、木、紙、クレヨン、パス、水彩絵の具、はさみ、のり
④ 土、粘土、木、紙、パス、はさみ、のり、簡単な小刀類
⑤ 土、粘土、木、紙、パス、水彩絵の具、はさみ、のり

60

- (イ) ① 木切れ、板材、釘(くぎ)、小刀、使いやすいのこぎり、金づち、糸のこぎり
② 木切れ、板材、釘(くぎ)、水彩絵の具、使いやすいのこぎり、金づち
③ 木切れ、板材、釘(くぎ)、水彩絵の具、小刀、使いやすいのこぎり、金づち、糸のこぎり
④ 木切れ、板材、釘(くぎ)、水彩絵の具、小刀、使いやすいのこぎり、金づち
⑤ 木切れ、板材、釘(くぎ)、小刀、使いやすいのこぎり、金づち、小のみ

61

(2) 次の文は、「中学校学習指導要領解説 美術編」(平成29年7月 文部科学省)における主体的・対話的で深い学びに関する記述の一部である。(ア)～(エ)にあてはまる適切な語句を①～⑧から選び、番号で答えよ。

主体的・対話的で深い学びは、必ずしも1単位時間の授業の中で全てが実現されるものではない。題材など内容や時間のまとまりの中で、例えば、主体的に学習に取り組めるよう(ア)を立てたり学習したことを振り返ったりして自身の学びや変容を自覚できる場面をどこに設定するか、対話によって自分の考えなどを(イ)する場面をどこに設定するか、学びの深まりをつくり出すために、生徒が(ウ)場面と教師が(エ)場面をどのように組み立てるか、といった視点で授業改善を進めることが求められる。また、生徒や学校の実態に応じ、多様な学習活動を組み合わせて授業を組み立てていくことが重要であり、題材などのまとまりを見通した学習を行うに当たり基礎となる「知識及び技能」の習得に課題が見られる場合には、それを身に付けるために、生徒の主体性を引き出すなどの工夫を重ね、確実な習得を図ることが必要である。

- ① 発表
- ② 広げたり深めたり
- ③ 考える
- ④ 見通し
- ⑤ 教える
- ⑥ つくる
- ⑦ 予想
- ⑧ 評価する

(ア)	(イ)	(ウ)	(エ)
62	63	64	65

(3) 次の文は、中学校学習指導要領（平成29年3月 文部科学省）における共通事項の指導に関する記述の一部である。(ア)～(エ)及び(オ)～(キ)にあてはまる適切な語句の組合せを、それぞれ①～⑤から選び、番号で答えよ。

2 第2の内容の取扱いについては、次の事項に配慮するものとする。

(1)〔共通事項〕の指導に当たっては、生徒が造形を豊かに捉える多様な視点をもてるように、以下の内容について配慮すること。

ア〔共通事項〕のアの指導に当たっては、造形の要素などに着目して、次の事項を実感的に理解できるようにすること。

(ア) 色彩の色味や明るさ、(ア)を捉えること。

(イ) 材料の性質や(イ)を捉えること。

(ウ) 形や色彩、材料、(ウ)などから感じる優しさや楽しさ、寂しさなどを捉えること。

(エ) 形や色彩などの組合せによる構成の美しさを捉えること。

(オ) 余白や空間の効果、立体感や遠近感、量感や(エ)などを捉えること。

イ〔共通事項〕のイの指導に当たっては、全体のイメージや作風などに着目して、次の事項を実感的に理解できるようにすること。

(ア) 造形的な特徴などを基に、見立てたり、(オ)などと関連付けたりして全体のイメージで捉えること。

(イ) 造形的な特徴などを基に、作風や(カ)などの(キ)的な視点で捉えること。

- | | | | | |
|---|------|--------|-----|-------|
| i | (ア) | (イ) | (ウ) | (エ) |
| ① | 質感 | 硬さ柔らかさ | 光 | 動勢 |
| ② | 質感 | 硬さ柔らかさ | 組合せ | ボリューム |
| ③ | 鮮やかさ | 質感 | 光 | 動勢 |
| ④ | 鮮やかさ | 質感 | 組合せ | 動勢 |
| ⑤ | 鮮やかさ | 硬さ柔らかさ | 光 | ボリューム |

66

- | | | | |
|----|------|------|-----|
| ii | (オ) | (カ) | (キ) |
| ① | 心情 | 様式 | 歴史 |
| ② | 心情 | 様式 | 文化 |
| ③ | 心情 | 芸術運動 | 文化 |
| ④ | 時代背景 | 芸術運動 | 歴史 |
| ⑤ | 時代背景 | 様式 | 文化 |

67